

神はこのイエスを三日目に復活させ

使徒言行録 10 : 34 - 43



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015年4月5日

復活日

奈良基督教会にて

「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」使徒言行録 10:40

先ほど朗読された使徒言行録第10章は、ローマの百人隊長コルネリウスの物語の一部で、ひとりの、神を求めるローマ人コルネリウスと主イエスの弟子ペテロとの出会いの箇所です。そこに復活の主が働かれました。その場面にわたしたちも今日、近づいてみたいと思います。

コルネリウスは、カイサリアに駐屯するローマ軍の百人隊長でした。カイサリアは地中海の港町で、エルサレムからは北北西にあたります。「カイサリア」とはカイサルの町、つまりローマ皇帝の町、という意味です。ここには大きな神殿が建てられ、ローマ皇帝を神として礼拝する儀式が盛大に行われていたようです。

しかしコルネリウスはとてもそれにはなじむことができませんでした。いつのころからか彼は、ユダヤ人たちが礼拝する神こそが本当の神ではないかと思うようになりました。

こう書かれています。

「(彼は) 信仰心あつく、一家そろって神を畏れ、民に多くの施しをし、絶えず神に祈っていた。」使徒言行録 10:2

彼は毎日規則正しく祈りの時を持ち、貧しい人々に施しをして、少しでも神に近づきたいと願っていました。しかしユダヤ人と外

国人である彼の間には、乗り越えられない大きな壁があつて、自分が信じたい、信じようと思つていることについて、教えてくれる人がありませんでした。

コリネルウスは、ナザレのイエスのうわさを聞きしました。イエスという人は、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられていた人々をいやしたというのです。

そのイエスが捕えられて、エルサレムで十字架にかけられて殺された、と聞きました。しかも自分と同じローマ軍の百人隊長で、エルサレムに駐屯していた者がイエスの処刑に立ち会つたというのです。

その百人隊長は、イエスが十字架で無残な死を遂げるとき、イエスの絶叫を聞いた。しかも聞くところによれば、彼はそのイエスの最後を見て、「この人は神の子だつた」（マルコ 15:39）と言つたというのです。いったいどういうことなのでしょう。

苦しむ人びとを救つたイエスが捕らえられて、ローマに対する反逆者としてローマ式の十字架刑で殺された。なぜそのイエスを、エルサレムの百人隊長が「この人は神の子だつた」と言つたのか。

知りたい。自分もそのイエスを見たい、と強い願いが起りました。彼コルネリウスがもっとも必要としている何かに、イエスは応えてくれるような気がします。コルネリウスは是非ともイエ

スのことをもっと知りたいと切望しました。しかしそのすべがありません。彼はうずくような思いで、神に祈り求めています。

ある日、彼がいつものように午後3時の祈りをしていると、幻のうちに天使の呼びかけを聞きました。

「ヤッファの町に人を送って、そこに滞在しているペテロと呼ばれる人を招きなさい。」 10:5

そこで彼は直ちに、信頼できる3人の人をヤッファのペテロのもとに送りました。ヤッファはやはり地中海に面した町で、カイサリアの南の方にあります。1日半くらいかかって、その3人の人たちはヤッファのペテロのところに到着しました。ペテロの方もまた、祈りの中で主から示しを受けていたので、カイサリアに行くことを承知します。

ペテロを迎えたコルネリウスは、イエスのことを切に知りたいと訴えます。それに対してペテロが答えたのが今日の箇所です。

「そこで、ペテロは口を開きこう言った。『神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせて、イスラエルの子らに送ってくださった御

言葉を、あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。

つまり、ナザレのイエスのことです。

神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。

人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。』」 10 : 34-41

ところで今、このようにコルネリウスに十字架と復活の主イエスを熱心に語っているのはだれか。主イエスの復活の証人として語っているのはだれでしょうか。ペテロです。ペテロとはだれか。イエスの一番弟子でありながら、逃げた人です。イエスを知らないと言った人です。自分の中に負いきれない負い目を持った人です。

「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してください

いました」(10:40) と彼が言ったとおり、神はイエスを復活させ、このペテロの前にイエスを現してくださいました。ペテロは、イエスの愛と赦しを知り、イエスに引き寄せられて、その復活の力によって造り変えられたのです。

自分自身の弱さと罪を知っているペテロが、イエスのことを話しました。ペテロは主イエスの生前の働きのこと、十字架の死のこと、よみがえりのことをコルネリウスたちに語りました。まだ彼が語っている最中に、思いがけないことが起こりました。

「ペテロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が^{くだ}降った。割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを、聞いたからである。」(10:44-46)

「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」

この「人々」とはだれでしょう。第一はペテロたちです。そして今、第二はコルネリウスのことです。

エルサレムの百人隊長が十字架のイエスを見上げて、その絶命を見て「この人は神の子だった」と言ったとすれば、それは神がそれを示されたから、という他はありません。

今、カイサリアの百人隊長に対しても神は同じイエスを示されました。

エルサレムの百人隊長が十字架のイエスを見上げたのだとすれば、カイサリアの百人隊長は、そのイエスが十字架から降りてきて自分を捕まえられるのを経験したのです。

コルネリウスがずっと抱えてきた問い、迷い、悩みは、このイエスが答です。十字架に死んで復活されたイエスがいま生きて、彼を新しく生かされる。古い自分はイエスの十字架とともに滅びて、新しい自分が復活のイエスとともに生まれています。

「神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。」

ペテロが第一、コルネリウスが第二とすれば、次はわたしたちです。わたしたちのためにも、神はイエスを現してくださいます。

コルネリウスはどのような人であったか。救い主を祈り求めていた人でした。わたしたちも祈り求めましょう。コルネリウスのようにイエスを知るために熱心でありましょう。

祈りましょう。

神よ、わたしたちにも現してください。十字架に死なれたイエスを、あなたが復活させられたイエスを現してください。イエスがわたしたちに近づき、わたしたちを迎え、わたしたちを新しい命と喜びで満たしてくださいますように。アーメン